東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第４５号です。
当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発 行
東北風景写真家協会
〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡3-8-15
東北カラーデューブ株式会社内
Tel 022-256-2141, Fax 022-256-2142
編集　阿部・丸山

「美しい日本」作品展を終えて

先﨑 康人

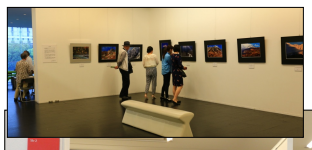
約半年の準備期間を経て開催された第６回作品展「美しい日本」も無事終了した。出品者は竹内会長、椎名顧問を含め52名、展示数は97点でした。展示では全紙での出品が増えたのが今回の特徴でもあったように思います。来場者は１４５７名に及び総じて「感動した・・・」との好意的な感想文が寄せられ、成功裡に終わったのではと安堵しています。参加会員の皆様には出品募集時点から作品撤収まで間、多大なご協力を頂き改めて感謝致します。

写真愛好者にとってはカメラを手にするだけでも楽しいものですが、写真を観て頂くことはより楽しいものです。しかし、多くの時間を撮影に傾注しているが作品発表の機会が少なく、優れた作品がハードディスクの中で眠っていると云う方々も多いのではないでしょうか。写真発表の方法には写真コンテスト、グループ展覧会、個展、インターネットを使った発信等がありますが、グループ展は作品発表の最も手軽な方法です。

ギャラリーを使って写真を発表する展覧会の醍醐味は、自分の作品が社会と接点を持つことが出来ることにあるように思います。自分を見られているような気分になり、目の前でその反応を直に体験できることは大いに刺激的です。作者も作品も生の反応にさらされることで強さを増していくのだと感じています。また、否が応でも作品選定から撤収までの間、自分の作品と向き合う時間が多くなり、自分の作品について思索を深める絶好の機会とも云えるのではないでしょうか。

出品者の皆様は展示を楽しむことが出来たでしょうか？展示会では展示を楽しむことも大切です。出品者が楽しむことなくして観覧者が楽しめることは出来ません。展示を楽しんでいれば観覧者にもきっと出品者が楽しんでいることが伝わり、観覧者も楽しめることと思います。

限られた展示スペースでの作品の選択、作品の意図に適した構図の微調整、プリントの微調整、マットの工夫、ペーパーの選択等々を工夫する作品作りを通じて、より展示が楽しめるようになるのではないでしょうか。グループ展では諸々の制約もあり難しいことですが、発表形式の自由度を拡大することも展示を楽しみ、展示会の発展にとっての今後の課題ではないかとも感じています。写真展示は写真活動の総決算です。今後ともグループ展等で写真発表の機会を得て作品作りの肥やしにしては如何でしょうか。また、次回の展示会にも多くの皆様のご参加をお願い致します。



【撤収作業前の全員集合】

平成３０年度 スマホ・タブレット教室

スマホ・タブレット便利な使い方 教室を開催しました
7月26日(木)日立システムズホール研修室２で開催され、９名の方が参加しました。スマホやタブレットを購入して写真やメモ撮影の他、通信システムや便利アプリの紹介、賢い料金設定見直しなど３時間の短い時間で目からうろこの研修会でした。
参加者にはこれから随時「スマホタブレット情報」をメールで一斉配信致します。今後希望者を募り、第２回目の実施も計画いたします。
（記事：丸山）

萩原史郎先生スライド＆トークセミナー開催

「風景を精密に撮影・表現するということ」

日時：１１月９日（金）13：30～、場所：日立システムズホール仙台
●撮影時に何を意識するのか、●カメラの最大限の性能を生かすにはどうするのか、●画面構成（構図）はどう考えるのか、●デジタルカメラの記録モードはどうするのか、●RAW現像はどうしたらよいのか等。
※同封の出欠確認はがきは来る　**９月３０にまでご返送ください。**

竹内会長ミニ展覧会開催のお知らせ

「竹内　正 写真展」・失われた原風景

震災復興が軌道に乗りつつあるなか、東北風景写真家協会で復興支援してきた太平洋写真学校が、昨年６年ぶりに開講した。今年も１２月に開催が決定しました。
これを機に**「日本の音風景１００選」**北上川河口の原風景・祭事等、震災前の美しい情景を再現して振り返った、ミニ展覧会を開催します。
場　所：　アートギャラリー杜　　仙台市泉区明石南2-5-5
日　時：　平成３０年１１月２３日（金）～２５（日）
　　１１月３０日（金）～１２月２日（日）
　　午前１０時～午後５時・最終日は午後４時まで

第15回太平洋写真学校北上教室へ協賛

参 加 者 募 集

協会協賛「第15回太平洋写真学校北上教室」
開催決定
期日：１２月１日（土）～２日（日）
石巻市北上町で行なわれる写真セミナーで、昨年に続き震災後２回目の実施。
主催「にっこり写真セミナー北上教室実行委員会」
募集人員：５０名（先着順受付）
参加費　５，０００円（事前振込申込制）
宿泊費１２，０００円（追分温泉宿泊当日現地払い）
講師陣：
竹内正先生、清水哲朗先生、井村淳先生
当協会会員の申込み、問い合わせは、
丸山幹事長（090-5594-1439）へ。

募集コーナー

平成３０年度 撮影実習セミナー予告

秋の撮影実習セミナーを鶴岡市田麦俣で開催予定
日時：2018年10月28日（日）
10：00～16：00
撮影から作品選定講評まで経験できる、一日実践型の講座です。
参加費用は８，８００円（バス代、高速代、昼食代、講義料等）
田麦俣の多層民家と旧分校周辺での日本の原風景撮影を、「たにしの楽校」の全面的な協力の下に実施いたします。
募集人員はセミナー講評時間の関係で２０名とさせていただきます。
受付。申込先：河北新報トラベル
電話０２２－２１１－６９６０

秋の撮影ツアー企画

アルプスに抱かれた天空の絶景
雄大な「千畳敷」と錦秋の「梅池高原」に泊まる撮影ツアー

同行講師　竹内 正・丸山 慎一（社)日本写真協会

旅行期間　平成３０年１０月４日(木)～１０月６日(土)　２泊３日

撮影のポイント（各ポイントとも時間を取って、ゆっくり撮影します）
・予約困難な千畳敷・梅池高原に宿泊します
・ホテルに居ながらにして、朝焼けと夕焼けの絶景撮影
・両ポイントとも居ながらにしてできる、夜景と星空撮影
※天候によって、撮影ポイントや行程が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。

旅行代金：**68,000円**（お一人様）　添乗員：同行いたしません
募集人員：40名様(最少催行人員30名様)　定員になり次第締め切りとなります
食事条件：朝食2回・昼食1回・夕食2回
宿　泊：1日目　千畳敷　ホテル千畳敷（和室　4名から6名1室）
　　2日目　梅池高原　梅池ヒュッテ（和室　4名から6名1室）

	行程	食事
10/4（木）	貸切バス 泉区役所駐車場 07:00 ― 仙台駅東口 07:30 ― 仙台宮城IC ― 東北・磐越・北陸・上信越道 ― 駒ヶ根IC ― 菅の台バスセンター 15:30 ― しらび平 ― ロープウェイ ～～～～～ 千畳敷（泊） 夕方・夜間：千畳敷のカールの夕景、夜景撮影	朝：× 昼：× 夕：○
10/5（金）	早朝撮影：千畳敷カールの朝景 ― ロープウェイ ～～～～～ しらび平 ― 菅の台バスセンター ― 梅池高原（泊） 夕方・夜間：梅池高原の早秋、夜景、星空撮影	朝：○ 昼：○ 夕：○
10/6（土）	早朝撮影：梅池自然園白馬乗鞍岳の朝景 ― ゴンドラ ～～～～～ 梅池高原 ― 糸魚川IC ― 北陸・磐越・東北道 ― 仙台宮城IC ― 仙台駅東口 20:30 ― 泉中央 21:00	朝：○ 昼：× 夕：×

※天候条件や交通状況によって、日程が変更になる場合があります。

お問い合わせ・お申し込みは　河北新報トラベル　まで
TEL:022-211-6960　FAX:022-723-4672
営業時間／09：30～17：30（土曜・日曜・祝日はお休みです）

お願い

★平成30年度年会費のお支払いのお願い

当協会の各種企画事業や「東風季報」の作成、発行、郵送料等は皆様の年会費にて運営しております。
年会費（3、000円）未納の方は、左記口座宛至急お振込み下さい。振込手数料はご負担をお願いいたします。

●七十七銀行旭ヶ丘支店
普通　５２７２５９９
東北風景写真家協会

●ゆうちょ銀行
１８１９０－
１４３８８８１
トウホクフウケイ
シャシンカキョウカイ

▼お問い合わせ先
会計担当　孫田幹事宛
☎090-2360-2973

お知らせ

★写真コンテスト上位入選者

現在、情報の確認がありません。

★新規入会会員ご紹介

跡部 義則　青葉区
石川 光枝　青葉区
川村 博信　宮城野区
佐藤 大輔　青葉区
高橋 勅　名取市
熊谷 正　泉区

お知り合いの方への入会のおすすめをお願いします。

★ご連絡下さい

写真コンテスト及び公募展に入賞または入選された方、また、個人やグループで写真展を開催される方もご連絡下さい。規定に則って掲載いたします。
（敬称略）

お元気写真

吉田カメラ仙台本店　吉田　倫太郎

写真というものに関していつもとちょっと違った目線のおはなしです。

毎日、撮影や写真の印刷業務を行っている関係上、最近エンディングノートや生前遺影写真などのお話をよく相談されるようになりました。これは自分の遺影写真の準備を自分が亡くなった後に、誰かがどこかで撮った写真で準備するのではなく、自分が生きているうちに自分が準備するというものです。多くの場合、運転免許証や、数年前、数十年前のだれかの冠婚葬祭に参列したときの写真が用いられるケースがほとんどです。

実は写真業界でも、突然残された家族が遺影写真を準備するというのは、とてもたいへんな作業で、ほとんどの方が苦労しているので、業界でなんとか解消できないか？と話題になりました。そう、実際身内の件を思い出しても、年齢も高齢になり、入退院を繰り返していたにもかかわらず、写真などの準備は直前までなかったと記憶しています。しかし偶然見つかったその写真はとても表情が自然で、みんなに大変好評でした。

お店によくいらっしゃるお客様から、実は友達に葬式用の写真撮ってと頼まれたんだけど、風景しか撮らないから断った。という会話を耳にして、カメラを趣味として使っている会員の皆様は、他から見たらきっとても上手に撮ってくれる。と期待されるんだろうと思います。でも、遺影写真を頼むというのは、とても勇気が必要で、デリケートに取り扱う必要がある撮影内容です。きっと頼んだ方はその方に撮ってもらいたかったんだろうと思うのです。遺影写真を見たときに、あれ？と目を疑うような別人のような写真でいいのか、今にもしゃべりだしそうないつもの自然な表情がいいのか。きっとその方はいつもの自分を写してくれると思ったのではないでしょうか。

風景写真家協会という会の会報にはもしかしたら場違いな話をしているかもしれませんが、まずは一番慣れ親しんだ身近にいる方の写真を撮ってみてはいかがでしょうか？もしそれもかなわなければ、だれか知人と撮影をし合ってみてはいかがでしょうか？きっとその場はとても明るい会話で盛り上がることになると思います。自分の今の顔というのを改めて見る機会にもなりますし、撮影の際にまたいろいろな、あ～してみたい、こ～してみたい、**みたいな楽しさ、面白さ**を発見できる一つの材料になると思います。

それに味を占めて弊社では、毎年撮りにいらっしゃるお客様も最近では増えてきております。生前遺影写真という堅い名前を改めて、**『撮れば撮るほど元気になるという意味を込めて、お元気写真という名前で活動を始めております。』**町内会にお邪魔して皆でイベント的に撮るという事もさせて頂いてます。ご興味ある方はいつでもご相談下さい。

どうか会員の皆様におかれましても、いち写真家として頼まれた写真は二つ返事で撮っていただければと思います。ぜひ返事には笑顔を添えて。

【町内会　合同撮影会にお邪魔した時のひと幕】

二つのカメラ

山口　美津子

◆さかのぼる大昔の事。高校入学時、兄のお下がりの**キャノン35ミリカメラ**を初めて手にしたのがきっかけで写真クラブに入部。モノクロフィルムの時代、撮影だけではなく現像も手掛けるという当時の私にとって全く縁のないもの、大冒険と言うかとんでもない所に入ってしまったと。

◆暗室での現像作業は、セーフライトの赤い電球の異様な雰囲気のなか、わくわくの期待感でいっぱいになります。たどたどしい記憶ですが薬品の入ったバットが４つくらい並んでいてまるで理科の実験室のようです。巻き戻したフィルムを引き伸ばし、薬品の違ったそれぞれのバットに順次浸していく中で、フィルムに光が当たった部分が黒く反転して映し出されたのがネガフィルム。現像は水温や薬品につける時間が、最後に出来上がるイメージに影響を及ぼしてしまうので一番大事な緊張の瞬間です。

◆次なる作業は確か引き伸ばし機で印画紙に大きく投影、露光して白黒反転が戻り中間プリントのようなものですが、まだ目で確認することはできないので同じ作業を繰り返します。露光した印画紙を現像液に浸すと少しづつ画像が浮かび上がる様子は、やっと自分の撮った被写体とご対面できることに、味わったことのない喜びと感動を味わいました。

◆ファインダーをのぞいてここぞとシャッターを切った時から，写真のプリントまで手掛けるやりがいのあるプロセスの醍醐味は、もう味わうことはありませんが貴重な経験でした。

◆初めての写真展デビューは、昔の丸光デパートの階段での展示。子供の頃によく遊んだ自宅の裏山で大木のクルミの木の下から思いっきり見上げて、木漏れ日をいっぱいと取り込んだ写真。もう一点はまだ舗装されていない砂利道をなれない自転車で漕いで向かった、今でいう仙台新港の海岸、よくできていたか否かは定かではありませんが。

◆卒業後のそれからは、本格的に関わることもなく、数十年後子育てが一段落した頃、何故かまた初めての**デジタルコンパクトカメラ**が転がり込んできたのです。とりあえず苦手な取説をマスター、庭や公園の花を撮りまくってはまあまあ行けるなと、便利で簡単できれいに写ルンですね。

◆丁度パソコンも挑戦しはじめていた頃だったので、初めて自宅でプリント。家の壁に飾っては自分だけの満足感に浸りながら、またカメラを手に写真の趣味としてできるかもと、逸る気持ちが沸々と湧いてきたのです。

◆スタートはＮＨＫの講座から始まり今は各サークル活動の中で、悪戦苦闘しながらも色々な方たちとふれあいご指導頂きながら今日に至っています。

◆セピア色の淡い青春を過ごしたあの時から、現在の色どりのある豊かな生活を演出できているのも、たまたま出会った**二つのカメラ**が繋いでくれたのだと。これからも心地よいシャッター音を聞きながら一枚でも多く心に刻む風景を撮っていけたらと思います。

【　　緑のオアシス　　】

寄稿募集中

あなたも書いてみませんか？

こんな話、あんな話　第四十二話

「経験則」という矛盾

▼写真業界で仕事をさせていただいて５０年余り、この歳になり振り返ることが多くなったような気がする。カメラ販売店に勤めていた時、毎日が驚きの連続であった。カメラの性能やフィルムの性質、写真プリントの変遷など。カメラの「カの字」や写真の「写の字」から基本を勉強して身に付け、お客様満足度を知識で上げることが楽しかった。もちろん先輩やメーカーさん、そしてとても好意的なお客様からもたくさんの事を教えていただいた。縁あって某フィルム現像所の地方営業所セールスとして東北地方に赴任した時、カラープリントの全盛期だった。もちろん８ミリカメラも普及しそのフィルム現像も増大した。ビデオカメラなどまだまだ先の時代だ。

▼そんな中、カメラのフィルムは様々な変遷を遂げた。１３５フィルムの他１２０フィルム（通称ブローニー）１１０フィルム（通称ポケットまたはワンテン）ＤＩＳＣ（ディスクフィルム）ＡＰＳ（エーピーエス）

そのフィルムの種類の何十倍もカメラの種類はあったのです。だから当時のカメラ屋さんは店頭での対応が大変だったのです。しかもカメラ価格の値崩れもすさまじいものがありました。

▼カラープリントの仕上がりも２日仕上げが翌日仕上げになり、そして即日仕上げ（朝出すと夕方出来上がり。今のクリーニングみたい）があたりまえに。まだカメラ屋さんにミニラボが普及する前のことです。各現像所は納期競争の対応に奔走していました。そして小型ミニラボ（フィルム現像とカラープリントが店内でできるようになった機械）が登場して３０分仕上げが可能になった。

▼と、ここまでが５０年のうちの４０年間であとの１０年がデジタルカメラ時代です。でも私のフィルム時代の４０年間よりあとのデジタル１０年のスピードのほうが数十倍速いです。だからついて行くのがやっとです。でも写真の基本はやはりフィルム時代に培ったものが大部分を占めていることは確かです。その時の経験はわたしの人生観（と言うか、写真感）に大きく貢献しています。

たぶんこれは「経験則」という言葉に置き換えられると思います。

▼今回のコラムの大きな題材である「経験則」はあらゆる文化資産や職業知識でも通用する経験基準であり、言い伝えられたものも多いと思われる。私も多くの経験を重ねてきた。もちろん失敗も多くあり、それも「経験則」として扱えると思う。そしてこの「経験則」をまだ経験していない人にお伝えすることが使命だと今に至っている。

▼「だが、待てよ。」本当にそうだろうか？「写真の趣味」という世界において、この「経験則」の押し付けは「余計なお世話ではないだろうか？」と思ってきた。だって普段から「驚きのある面白い写真を撮ろう」と言っているのに、経験則を聞いていたら今まで変わり映えのしない同じ写真になるじゃないか。「経験則」を乗り越えたところに驚きや感動があるのではないか！

▼だからみなさん、これから私の言う「経験則」は聞き流してください。「経験則」をさも当たり前のように言ってきたことに自分で矛盾を感じている今日この頃の私です。忘れっぽくなったついでに「経験則」も捨てよう。すっきりと。

（二〇一八年九月　丸山慎一）

編集後記

１面の記事は当協会の作品展「美しい日本」の開催結果について先崎幹事に、また今後の活動計画等を掲載いたしました。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

２面の記事は吉田倫太郎さん・山口美津子さんに快くお引き受けいただきました。丸山幹事長は連載です。

この季報は皆様のご投稿で作られております。

撮影ポイントのご紹介や撮影のテクニックなど、皆様のご投稿をお待ちしております。